



2024年11月21日

各 位

会 社 名 株式会社フェニックスバイオ  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 島 田 卓  
(コード番号：6190 東証グロース)  
問 合 せ 先 専務取締役管理部長 田村 康弘  
(TEL 082-431-0016)

「ALT 1 及びALT 2 の測定用マーカーペプチド」に関する日本特許査定のお知らせ

当社は、「ALT 1 及びALT 2 の測定用マーカーペプチド」に関する発明が日本において特許査定されましたのでお知らせいたします。

今回の特許は、当社主力製品であるPXBマウスや病態モデルマウスなどのキメラマウスにおいて、ヒトALTとマウスALTのわずかな違いをLC-MS/MS（液体クロマトグラフィーとタンデム型質量分析装置を組み合わせた分析）で測り分けることに成功しており、従来の方法では困難であったマウス及びヒト由来のALT 1 及びALT 2 を同時に定量することを可能とするものです。

なお、本件が当社の業績に与える影響については軽微であります。

【概要】

ALT（アラニンアミノトランスフェラーゼ）はGPTとも呼ばれる主に肝臓に多く含まれる酵素であり、障害マーカーとして広く利用されております。ALTにはいくつかの種類が報告されており、ALT 1 は肝毒性、ALT 2 は骨格筋に特異的な障害マーカーとして知られています。

本発明により、創薬における安全性評価において、ヒト肝細胞キメラマウス（PXBマウス等）へ薬剤を投与した後に、血中や臓器中におけるヒト及びマウスのALT 1 及びALT 2 をLC-MS/MSで同時に定量することで、薬剤による毒性の由来（ヒトあるいはマウス）及び毒性が生じている臓器（肝臓あるいはそれ以外）をより精度良く予測できることが期待されます。

また、効率的にキメラマウスを使用することで、動物倫理で謳われる「3Rの原則」の1つである動物使用数の減少についても貢献するものと考えております。

以 上